

平成 28 年度第 4 回運営幹事会議事録

作井技術委員会事務局 寺口敬秀

開催日時：平成 29 年 1 月 16 日（月）16:30~18:00

開催場所：日本海洋掘削株式会社 5 階 5M-1, 2 会議室

参加者：古谷委員長、末永、石黒、工藤、藤田、長縄、日野、菅野、佐藤、前田、木下、
藤井、峰、寺口（敬称略・14 名）

欠席者：池田、藁谷、福嶋（敬称略・3 名）

議題 1：各活動報告

1-1. 大水深掘削技術分科会

- 第 23 回会合を 1 月 27 日に開催予定（於：JDC 会議室）
「大水深用泥水システムの現状と技術課題」を予定（テルナイト藤井氏）

1-2. 協会理事会

- 第 81 期第 5 回理事会を 12 月 14 日に開催した。主なトピックスとしては以下の通り。
 1. 石油技術協会賞候補者の推薦について
 - ✓ 「特別賞」の候補者として JAPEX 片岡氏を推薦するかどうか検討（若手技術者交流会の活動発起による協会への貢献を評価）。
 - ✓ 「特別賞」対象者の確認や推薦方法を協会事務局に確認。
 2. 会計報告および経費削減案について
 - ① 今年度・来年度は赤字になる事が確実
 - ② 80 万円の追加予算を計上し、HP 改訂を行い協会誌を見やすくする
 - ③ 経費削減のため会誌の印刷廃止を進める
 - ④ 2017 年 3 月までにデジタル会誌試作品を作成し、4 月の理事会で承認を求める
 - ⑤ デジタル会誌にアクセスできる Web 会員の登録者を増やすべく Web 活用キャンペーンも実施していく
 3. 石油鉱業連盟との業務委託契約締結について
 - ① 職員人件費に対する JAPT 負担割合は 50%で据え置き
 - ② 事務所管理費の JAPT 負担を免除から 25%負担へ変更
⇒来年度以降はさらなる負担増を要求されている
 4. その他
石鉱連の資源評価レポートが来年度以降改訂予定であり、当協会にも協力依頼がされる予定。地質や生産が主で作井部門の負担は小さい見通し。

議題 2：JAPT ホームページ、石油開発 ABC の改訂について

- 現在の HP は見にくく、暫く更新もされていないため、改訂が必要（HP 委員会の依頼）
- 当委員会の改訂項目分担は以下の 3 項目
 - ① 油・ガス井の検層と試油
 - ② 海洋の石油開発／海洋掘削技術／海洋石油開発の可能性／極限への挑戦

③ 掘削技術のあゆみ／掘削の先端技術／油井の掘削と仕上げ技術

- JDC が主体となり改訂作業を進めつつ、適宜各社に振り分けご協力いただく
- 既存内容は石鉱連発行の「石油・天然ガス開発技術のしおり」を基にしている。このしおり自体も 2012 年に改訂されたので、こちらを一部参照することになる。ただし、HP 委員会としては独自に改訂を行いたいとも考えており、可能であれば当委員会担当部分も独自改訂するべく内容を検討していく。

議題 3：平成 29 年度春季講演会について

3-1. 開催概要

- 会場：国立オリンピック青少年総合センター（東京・代々木）
- 日程：2017 年 6 月 13 日（火）～15 日（木）
 - 13 日（火）第 82 回定時総会・特別講演会
 - 14 日（水）作井部門シンポジウム
 - 15 日（木）作井部門個人講演
 - 16 日（金）見学会（地質巡検コース・施設見学コース）

3-2. 個人講演投稿要領

- 申込期間：12 月中旬～平成 29 年 2 月 10 日（金）
- 講演要旨原稿期日：平成 29 年 4 月 19 日（水）

2-3. シンポジウム趣意書の審議、講演者候補の選定

- 趣意書案の審議
- シンポジウムテーマ
「時代の流れと作井技術の変遷 -作井技術の過去、現在、そして将来の見通し-」
- シンポジウム講演者、演題の選定
 - ✓ 運営幹事各社より講演題目、講演者の検討を行う
 - ✓ 最低でも講演を全体で 6 件行えるよう準備
 - ✓ 発表時間については質疑含め 40 分を目安に、各発表者の意向を汲みつつフレキシブルに対応
 - ✓ 2 月 10 日までに演題・要旨・発表者を事務局まで連絡することを確認
シンポジウム講演については Web 登録ではなく、作井事務局にて取りまとめたりストを本部に提出
- 討論会について
 - World Café 方式のグループ分け方法
年代別だけにこだわらず、業種別にも小グループを作る、など少しずつでも変更改善を図る
 - グループディスカッションのテーマ
ベテランのみならず若手も活発に発言できるようテーマを設定する。

議題 4. 第 2 回作井技術委員会について

- 2017 年 3 月 24 日～31 日のいずれかで開催を調整
特別講演は「IoT and Big Data in Shipping」として日本郵船株式会社に依頼する予定。

議題 5：その他

協会誌のスケジュールに関して

- 6 月の春季講演会のシンポジウム原稿を載せた 9 月号の刊行が 11 月にずれ込んでいる問題に関して、少しずつでも時期を早めて正規のスケジュールへ戻していきたい、という指摘が編集委員会にて提起されている。
- 春季講演会後から原稿を準備すると時間的にタイトであるので、講演会発表と同時ないしその前から原稿依頼をするなどして 8 月末までに原稿を取りまとめて 9 月刊行できるよう取り組む。

以上